

## A-1 学校研究

中学生期は豊かなスポーツライフに向けての基礎（土台）づくりの時である。生涯にわたって「運動に親しむ」、そして「自己の生活の中に運動を取り込む」生徒を育てようとするとき、保健体育科授業において、いかに満足した運動体験を与えることができるか、また、その体験を通して、いかに運動の真の楽しさ、喜びを味わわせることができるかが大きな鍵となる。しかし現状では、運動に興味をもち活発に運動をする者とそうでない者に二極化していたり、日常生活の中でストレスおよび不安感を抱え込み運動に消極的になってしまったりなど、多くの問題点が浮き彫りとなっている。このような現状を踏まえると、これまで以上に運動に対する興味・関心、意欲を高める学習活動の展開が重要となってくる。

そこで、興味・関心、さらには意欲をより高める学習活動の実現を目指して、これまで以上に選択制授業の改善と充実を図ることとした。これまでの本校の選択制授業では、特に「生徒の前向きな自発的・自主的な学習活動」という点で大きな成果を残してきた。この積み重ねの成果をもとに、より改善と工夫を加える中から、運動に対する「追求心」をいっそう引き出し、そして、より高めることを目指した。追求心の高まりは『自ら考え、工夫する力（学ぶ力・考える力）』へと発展し、さらには、その力が生涯を通じて自ら運動しようとする基本的な姿勢の確立へと結びついていくものととらえ、実践している。

また、「ねらいなき授業に評価なし」のもと授業に取り組んでいる。指導と評価を一体化させるためには、まず毎時間の授業のねらいを明確に示すことからであり、その上で「しっかりとした評価を行うには、工夫された学習指導があり、その学習指導のもと学習活動が展開されるべきである」ことを基本的な考え方とした。具体的な改善としては、小松市の学校教育研究協議会・保健体育部で作成した評価規準を基にした、各種目の評価規準表を改訂し、これまで以上に学習のねらいと評価が結びつくようにした。